

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

川崎市立南河原中学校（神奈川県）【指定校】

【取組内容】 ②情報活用能力の育成

情報活用能力を育成する視点が学校内で共有され、系統的な指導が継続されている

	1 年次	2・3 年次
学習課題・目標	自分自身で学習課題や目標を設定する。	クラウド環境で他者の様子も参照しながら自身に合った学習課題や目標を設定する。
学習への取り組み	クラウド環境を積極的に活用する。その中で活用のルールや情報モラルについて学ぶ。	クラウド環境を活用し、自身に必要な情報を選択し参照する。自身の考えを途中アウトプットし、他者からの意見も参考にしながら粘り強く取り組む。

大切にしていることは、自分で学習を進めることができること。

2年生からクラウド環境を生かした学習をよりよく展開するために、指導する視点が学校で共有されている。情報の扱い方のルールや情報モラルはデータを扱う中で学んでいく。

データの取り扱いで問題が起こった時は、教師が内容を共有して指導にあたる。そして、生徒会組織とも連携し注意喚起することもある。

南河原中学校では「とにかくやってみよう！」という前向きな気持ちを大切にし端末の活用を進め、操作に慣れる雰囲気が構築されている。トラブルが起きても、生徒会とも相談し解決策を考えることで生徒がより自分ごととして捉える工夫がされている。